



地域で輝ける(傾聴)ボランティア 養成のあい方について

～これからの足利市を地域と共に～



素通以
禁止 
足 利

地域包括支援センター協和・愛宕台
認知症地域支援推進員 野村 昌大

足利市役所健康福祉部地域支援担当
社会福祉士 饗庭 啓将



足利市 (栃木県)



等

足利学校

(足利学校、鏝阿寺、織姫神社)

素通以禁止



足利



足利市(栃木県)の認知症の社会資源

- ・地域包括支援センター 7か所(委託)
- ・認知症地域支援推進員 2名(社会福祉法人に委託)
- ・要介護認定率 15.4%
- ・要介護認定者数 7,239人
(内、認知症高齢者数 3,029人(※))(H29.3.31時点)
(※)認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱa以上の方の数
- ・特別養護老人ホーム 18か所 784床
(地域密着型) 7か所 171床
- ・認知症疾患医療センター 2か所
- ・認知症サポート医 6名



足利市(栃木県)の認知症施策

1. **認知症を理解を深めるための普及啓発の推進**
 - ・認知症サポーター養成講座
(小・中高等学校や企業等でも実施)
 - ・普及啓発イベント
(たかろばカフェ:認知症の講座や認知症テスト実施)
 - ・認知症広報誌(オレンジだより)を年2回発行
2. **認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護の提供**
 - ・認知症初期集中支援チームの設置
 - ・介護職員を対象とした認知症対応事例検討会の開催
 - ・認知症ケアパスの作成・活用
 - ・月1回、各包括支援センターへの情報収集と認知症疾患 医療センターとの連携



足利市(栃木県)の認知症施策

3. 若年性認知症施策

- ・高齡、障がい等の専門職が集まり、定期的に勉強会を開催

4. 若認知症の人の介護者への支援

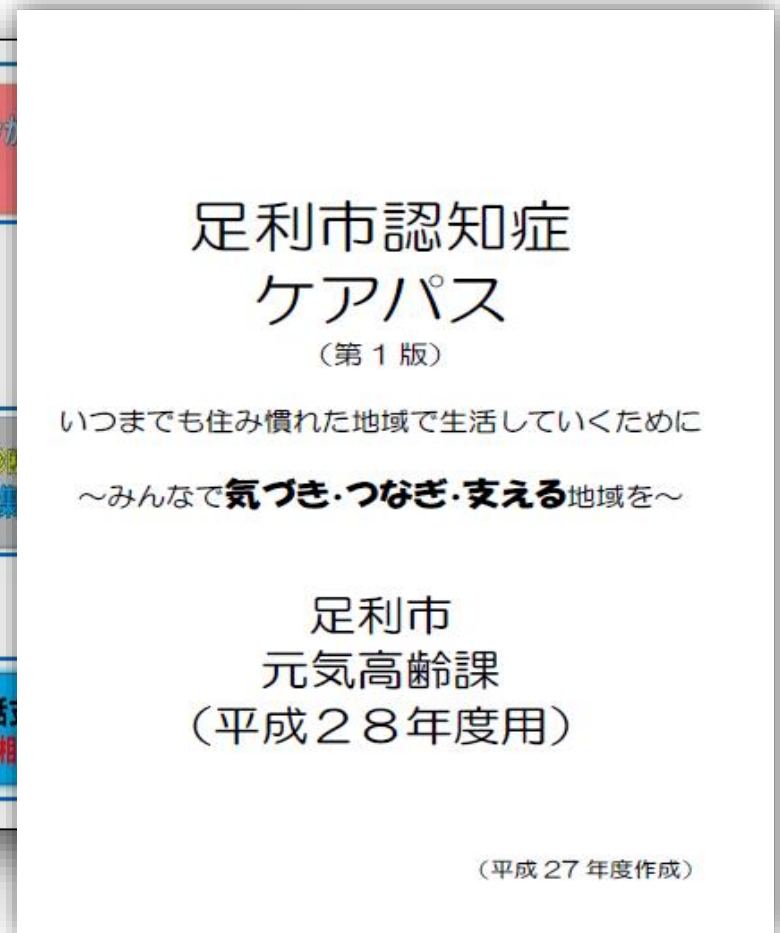
- ・たかろばカフェ(認知症カフェ)を市内5か所に設置
- ・オレンジ会(家族会)を各地域包括支援センターで開催

5. 若認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

- ・たかろばサポーター(ボランティア)を養成し、組織化
- ・たかろばカフェ連絡会を作り、見学会や勉強会を実施



足利市版認知症ケアパス



※足利市ホームページや元気高齢課窓口で配布しています。

・HPからの閲覧方法

足利市認知症ケアパス



足利市の認知症施策の課題と方法

●課題

認知症地域支援推進員着任以降、認知症サポーター養成講座を受講した方のステップアップとして、傾聴ボランティア養成を行ってきたが、実践的なボランティア活動に結びついてはいなかった。

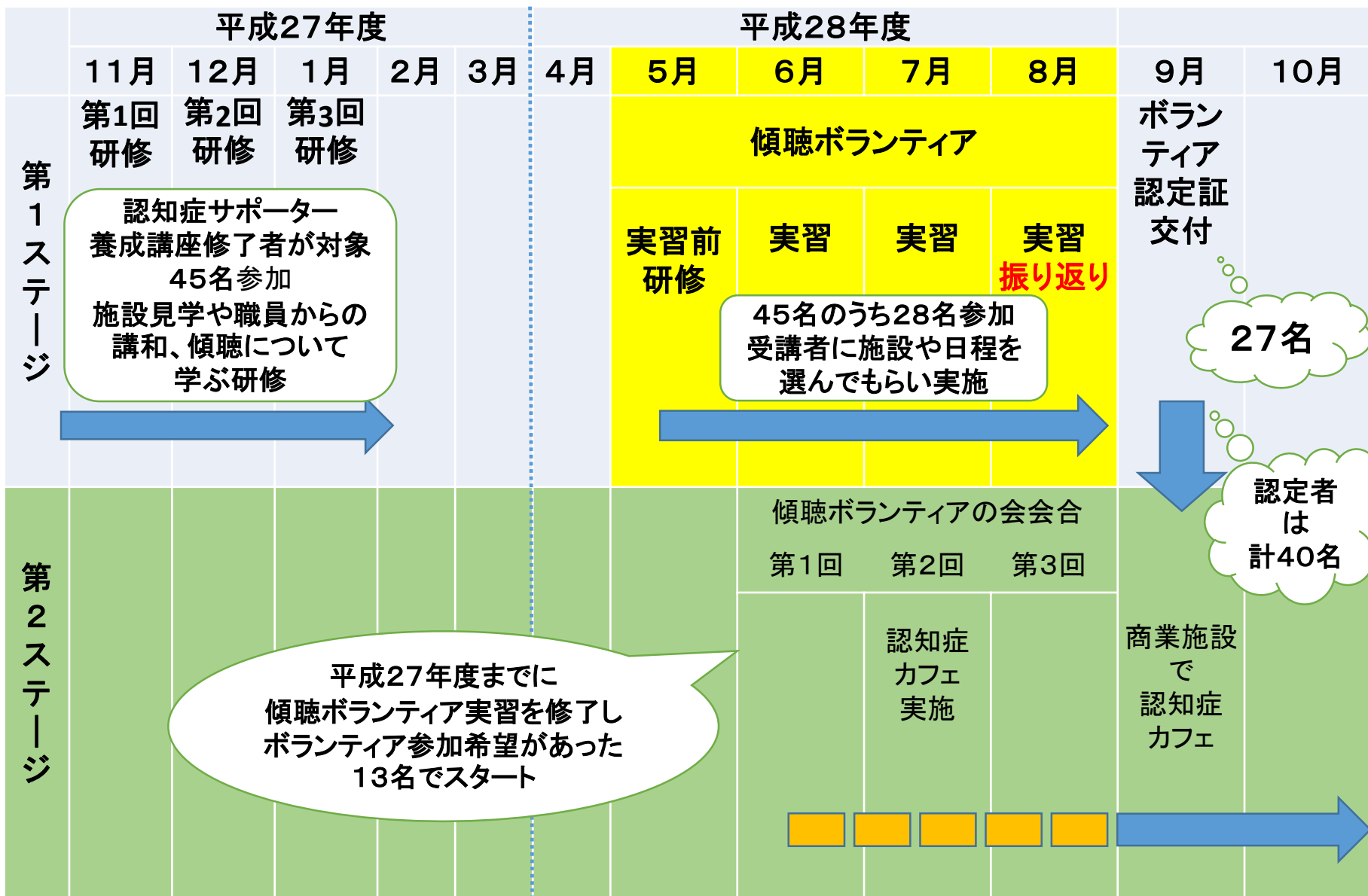
認知症カフェ等の居場所作りを進めていく上でもボランティアの協力が必要となっている現状があった。

●方法

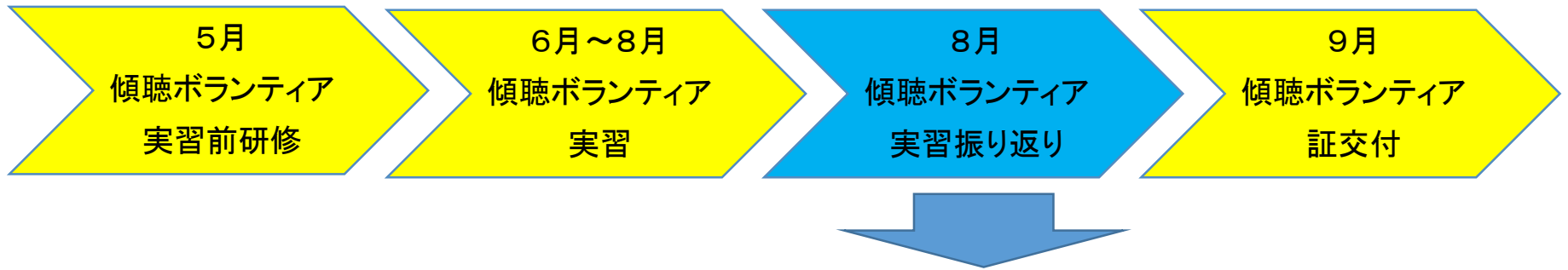
- ・傾聴ボランティアへの介入過程を言語化する
- ・傾聴ボランティアに対するアンケート調査を実施する
- ・認知症地域支援推進員として自らの実践を振り返る



平成28年度 傾聴ボランティア養成の過程



平成28年8月、第1ステージでの困りごと発生



平成28年度の新規傾聴ボランティア研修で困り事が起こる！

ボランティアの中に、傾聴ボランティアなのに体操をしていた人がいた。それを見た他のボランティアが、それはできないと今後の活動に拒否が見られた。

傾聴ボランティア
本来の目的は
何だった？



どういったボラン
ティアを養成した
んだっけ？

- ・その原因は何？
- ・講座に問題があったか？

- ・専門職との意見交換実施
- ・ボランティアにアンケート実施

専門職との意見交換

8/29
傾聴実習受け
入れ事業所
との会議

9/27
社協と
市役所
との会議

10/27
事業所
との
検討

9/23
市役所
との会議

10/3
社協での傾聴
ボランティア
研修打ち合わ
せに参加

11/4~
社協での
傾聴講座に
ボランティア
参加

検討結果

- ・メンバーである個々の傾聴ボランティアだけでなく、そもそも、団体自体の活動目的が**明確**ではなかった。
- ・実習受け入れ施設の対応も、傾聴の目的について伝えておらず、バラバラだった。
- ・ボランティア自身が傾聴自体に不安があるから違う活動になってしまったのではないか？

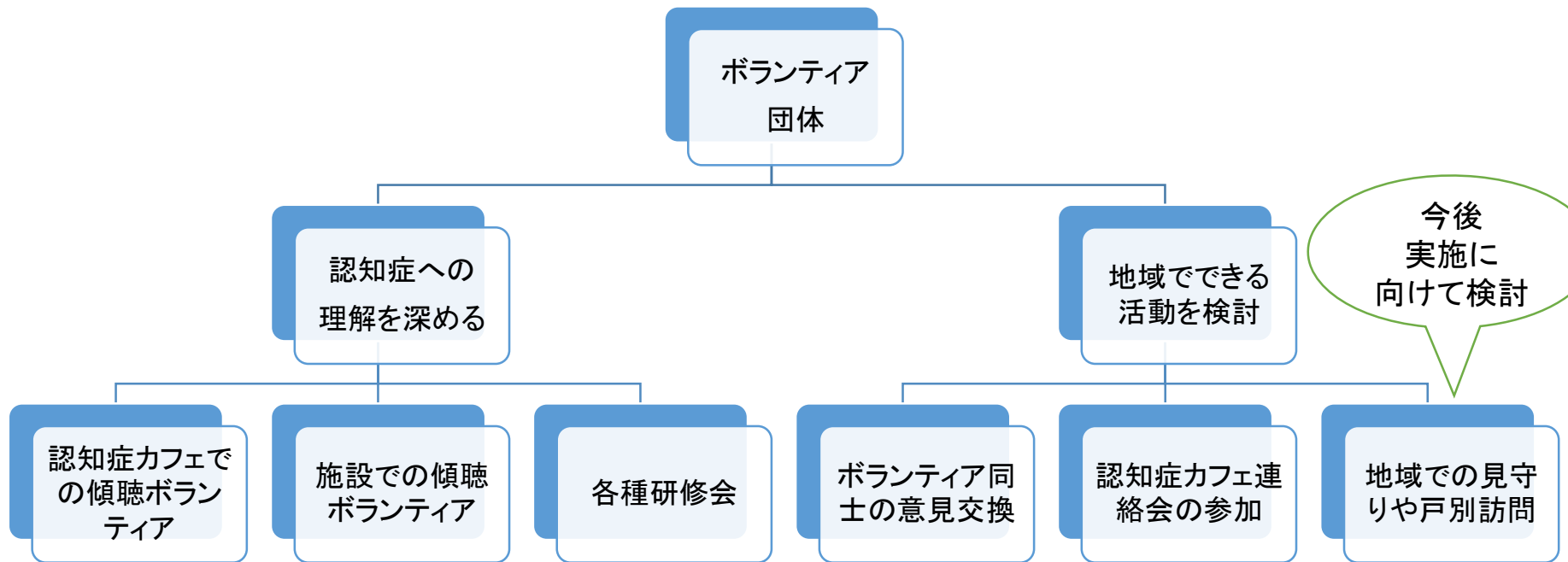
結論：関係機関もボランティアも活動目的や内容の共有しておく必要がある。

ボランティアにも検討結果を伝え、活動目的や内容の共有を図る

導き出した傾聴ボランティアの目標と活動

活動目標

- ・ 認知症への理解を深め、傾聴を通じて、地域でさりげない見守りや支援ができるようになる。



- ・ 上記の内容をボランティアに周知した

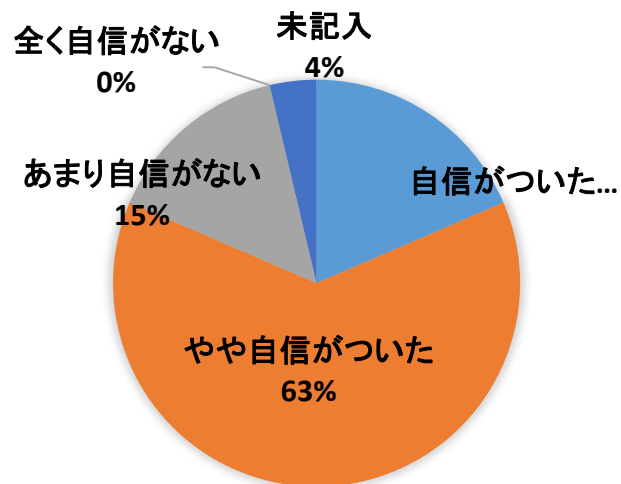
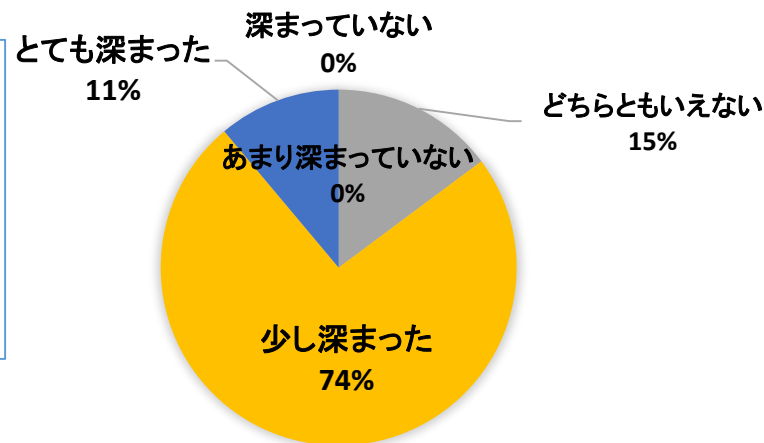
傾聴ボランティア実習をした方にアンケートを実施

実施日 平成28年11月29日(火)

回収率 68%(対象:40名のうち、当日の参加者27名)

Q1: ボランティア活動をする前に比べて、認知症に対する知識は深まりましたか？(理解度を1～5で分類)

A1: ボランティア活動の前後で認知症に対する知識が深まったと回答した方が78%、変化がない方が22%であった。

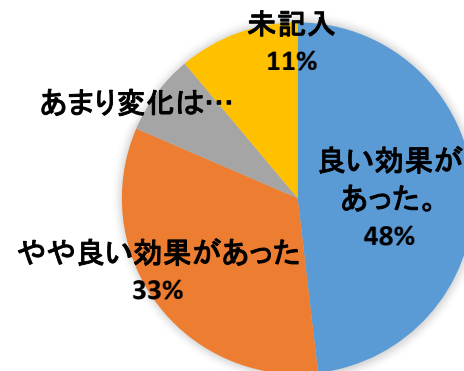


Q2: 今年からボランティア活動や研修等に参加して、昨年よりも自信がつけましたか？

A2: ボランティア活動に参加して自信がついたと答えた方が全体の80%にのぼった。

Q3: 認知症地域支援推進員が取り組んできた働きかけはボランティア活動を行なう上で良い効果をもたらしたか？

A3: 認知症地域支援推進員の取り組みは良い効果・やや良い効果をもたらしたと答えた方も全体の81%いた。



アンケート考察

明確な目標はなかったがボランティアのモチベーションは維持されていた。



- ・しかし、研修会でのグループワークで「早く施設に行って、みんなと一緒に体操をしたい」と、目的を理解されていない発言をされた方がいた。
- ・研修会の中で傾聴についての講座やボランティアの目標と活動内容を共有した。認識の違いに気づかれ、施設での傾聴ボランティアの目的を再確認されていた。



モチベーションが高くても、明確な目標や活動内容がないと、目標に沿わない行動を取る人が出てくる。

ボランティアに対する働きかけ(第二ステージ)

ボランティアグループの立ち上げ支援

ボランティア機会の設定

ボランティア内で意見交換し、内容を決定

準備は認知症地域支援推進員が対応

ボランティアへ認定証を交付し、ボランティアとして承認

ボランティア受け入れ事業所の開拓・調整・サポート

施設での傾聴ボランティア
や認知症カフェでの
ボランティア等

認知症カフェ
連絡会の
実施や傾聴
ボラ受け入れ
施設への
連絡調整等

【モチベーションを維持する為に意図的に介入した事】

- ・具体的な短期目標の積み重ね、準備から一緒に行い、意見も取り入れる。
- ・適切な困難度をボランティア自身で決定できるような仕組みを作る。
- ・市内で開催する研修会の案内や年賀状等を送付する。
- ・市長から認定証を交付してもらう。また、マスコミにも大々的に取り上げてもらう。
- ・専門職が集まる会に参加を促し、ボランティアとしての発言を求める。

まとめ

☆ 今回の一連の取り組みで良かったこと

- ・関係機関と連携が図れ、共通の目的を持ってボランティア養成ができた。
- ・これまでの活動を振り返り、整理する事で、ボランティアの目標と内容を可視化する事ができた。

☆ 改善を要すること

- ・まだ専門職主導で考え、支援している部分が多い。ボランティア主体で活動するイメージ持ちながら、推進員がファシリテーターの役割を担って、自主的な活動に繋がるように支援していく必要がある。

☆ 今後行うこと

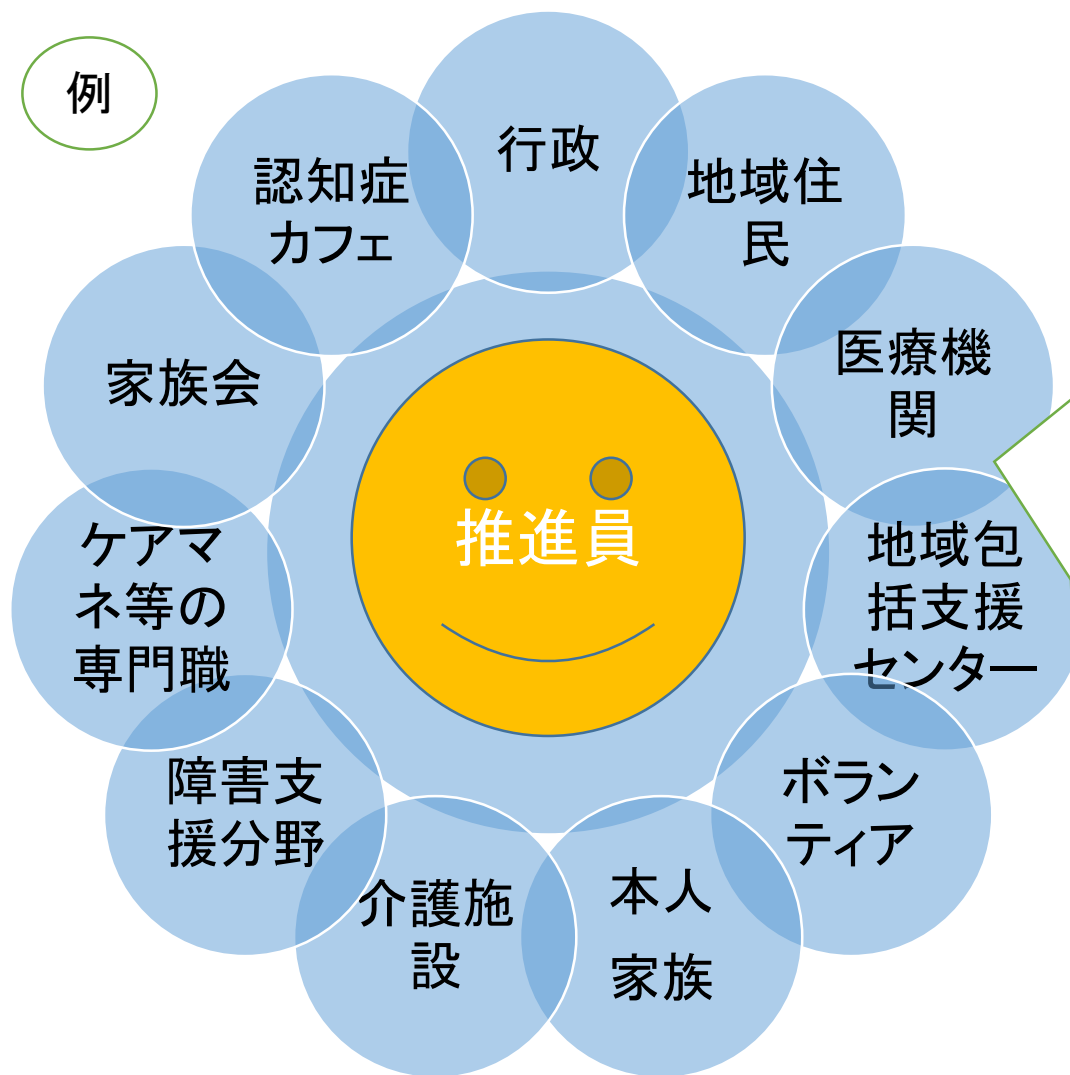
- ・地域住民や他専門職にもボランティアの目的や活動を伝え、認知症の方やご家族への支援の場を増やしていく。
- ・ボランティアの活動を支える仕組みを作り、ボランティア自身の生きがいややりがいに繋がる活動に繋げていく。
- ・今回の結果を関係機関と共有し、今後の課題に向けて検討する。

今後の活動・取り組みの方向性



研修に参加されている皆様へ

例



私達の周りには、一緒に活動してくれる仲間が沢山います。その仲間と仲間を繋ぐことでネットワークの輪が大きくなり、地域の特性を生かした活動に繋がると思っています。一緒にがんばっていきましょう！！